

男女共同参画 × 多文化共生

びゅあフェスティバル 2025 開催しました!

—多様性を認め合い、自分らしく暮せる山梨へ—

総合会場

令和7年12月13日(土)・
14日(日)に「男女共同参画×

多文化共生びゅあフェスティバル 2025」を開催しました。今年度も、山梨県立国際交流・多文化共生センターとの共催で、主会場をびゅあ総合とし、オンラインでびゅあ峡南・びゅあ富士をつないでの合同開催といたしました。1日目は記念講演会と管内市町村男女共同参画推進委員交流会というプログラムでじっくり学ぶ時間を設け、2日目は「食と音楽と物販のダイバーシティフェス」として、さまざまな団体が集い、ご来場者様も含めて皆が交流し合える楽しいひと時を過ごしました。1日目と2日目で少々コンセプトをわけたことで、より多くの方にどこかのプログラムで携わっていただくことができ、それぞれにあった形でフェスティバルを味わっていただけたのではないかと思います。

1日目午前中に行われた記念講演会では、イラストエッセイストの犬山紙子さんをお招きし、「家事分担、育児、働き方、生き方。—パートナーとジェンダーロールに縛られることなく自分らしく生きるためのヒント—」と題してご講演いただきました。女性と比較すると男性の育休取得率はまだまだ低いこと、同じ職種・等級であっても男女間で賃金格差が生じるケースが依然多いこと、女性と言う理由だけで配属部署が決まってしまうたり、妊娠・出産を理由にハラスメントを受けやすいこと等…社会の中で依然として残り続ける「ジェンダー不平等」を解消しようという動きはまだまだ途上であり、構造はなかなか変わらない現実があります。しかし、各家庭におけるジェンダーロールは、夫婦が話し合って互いに納得できる形で、ジェンダーではなく個々の性質に合わせて設定しようと試みることは可能なことだと犬山さんはおっしゃいます。家庭内に、女だから・男だからこうあるべき、を持ち込まず、パートナーと対話する中で自分と相手の考えや思いを擦り合わせ、自分たちに合った分担を、納得した上で家庭ごとに決めていけば良いということを教えていただきました。すぐにも取り入れられるヒントが満載で、とても聞きごたえのある講演会となりました。

となりました。

1日目午後に行われた男女共同参画推進委員交流会では、びゅあ総合管内7市町村の推進委員が一堂に会し、互いの

活動状況の共有や情報交換、ディスカッションを行いました。各市町村で推進活動を頑張る委員さんがたくさんおられるにも関わらず、なかなか市町村を超えて集まる機会がないため、思う存分語って交流をしていただきました。ただ情報交換をするだけでなく、「ジェンダー平等をより進める『推進委員活動』とは?」というトークテーマを掲げ、グループごとにアツク! 熱く! 語り合っていました。どのグループのディスカッションも大変盛り上がり、「時間が足りないくらい」「もっと話したかった」と多くの委員さんがおっしゃるほど、充実した時間を過ごせたようです。本交流会が委員会同士の関係構築のきっかけ作りや、対話や意見交換を通しての新たな視点の獲得、今後の推進活動や課題解決に繋がる一助となったのではないかと感じています。



2日目は、ステージ発表に美味しい食べ物、色とりどりの物販に楽しいワークショップの数々…と、多くの方が集う楽しいお祭りとなりました。性別も年齢も国籍もさまざまな方々が集い、一体となって関わり合い、楽しみ合う空間はまさに「男女共同参画×多文化共生」を体現しているようでした。

男女共同参画推進センターと国際交流・多文化共生センターとの合同開催になってから3年目となりましたが、イベントが少しずつ周知され、この、年に1度のお祭りを楽しみに待っていてくださる方も増えてきたことを実感しています。互いのセンターの理念や日々の活動、取組に違いはあれど、2つのセンターがタッグを組むことで生じる多様なメッセージが、フェスティバルを通じて多くの方に伝わってきているのを感じます。すべての人が、この山梨で自分らしく生き、互いの違いを認め合うことのできる「多様性」を基盤においた社会の実現を目指し、今後も2つのセンターは歩みを進めていきますので、これを機にもっと多くの方に我々のセンターに関わっていただけると嬉しいです。

2日目午後に行われた男女共同参画推進委員交流会では、びゅあ総合管内7市町村の推進委員が一堂に会し、互いの活動状況の共有や情報交換、ディスカッションを行いました。各市町村で推進活動を頑張る委員さんがたくさんおられるにも関わらず、なかなか市町村を超えて集まる機会がないため、思う存分語って交流をしていただきました。ただ情報交換をするだけでなく、「ジェンダー平等をより進める『推進委員活動』とは?」というトークテーマを掲げ、グループごとにアツク! 熱く! 語り合っていました。どのグループのディスカッションも大変盛り上がり、「時間が足りないくらい」「もっと話したかった」と多くの委員さんがおっしゃるほど、充実した時間を過ごせたようです。本交流会が委員会同士の関係構築のきっかけ作りや、対話や意見交換を通しての新たな視点の獲得、今後の推進活動や課題解決に繋がる一助となったのではないかと感じています。

